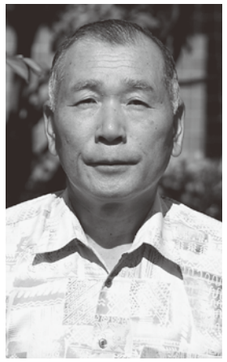
さまざまな分野に貢献された皆さんを 国や県などが表彰

木幡重好さん 瑞宝双光章受章!



木幡重好さん（用土4）が瑞宝双光章を受章されました。

木幡さんは昭和44年3月、航空自衛隊に入隊し、平成16年7月に1等空尉で定年退官されるまでの35年4カ月間、豊富な経験と卓越した識見をもって職務を遂行されました。

入隊時は熊谷基地に配属され、新隊員課程終了後「教育特技員」の指定を受け、新隊員等基本教育の助教および教官として教育業務に従事しました。昭和59年以降は主に個人訓練担当者として熊谷、那覇、入間の各基地で自衛官個々に必要な一般的共通知識技能の維持、向上に関する訓練の計画立案、実施および評価等に携わりました。

木幡さんは「とても名誉なことで、非常にうれしく思います。今まで支えてくれた多くの人々に感謝したいです」と話してくれました。

津久井幹雄さん 旭日小綬章受章!

津久井幹雄さん（中町）が旭日小綬章を受章されました。

津久井さんは、昭和62年5月から約7年間、寄居町議会議員を務められ、この間、町副議長や常任委員会副委員長を歴任されました。

平成6年8月からは、寄居町長を4期16年務められ、2度にわたる総合振興計画の策定をはじめ、寄居皆野有料道路の開通等の都市基盤整備、鉢形城歴史館や町立図書館等の生涯学習施設の充実、ホンダ寄居工場の誘致等に尽力され、地方自治の発展に大きく貢献されました。

こうしたさまざまな功績により、昨年は町表彰を受賞されました。

現在も町シルバー人材センター理事長、町農業委員会会長、寄居地区安全防犯協会会長として引き続きご活躍をされています。

津久井さんは「皇居での拝謁式において皇太子殿下よりありがたい労いのお言葉をいただき、今後も、そのお言葉を励みに、より一層精進してまいりたいと存じます」と話してくれました。

彩の国コミュニティ協議会長から シラコバト賞

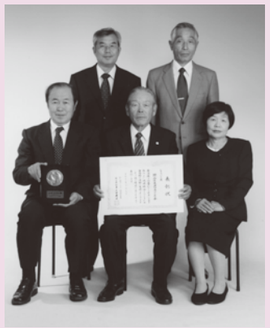
日ごろから、住みよい地域社会を実現するため、多くの方々が、長年にわたり実践活動を続けています。

シラコバト賞は、こうした個人や団体に対し贈られるものです。

住みよいふるさとをつくる活動
野口徳明さん

野口さん（南飯塚）は、平成10年に地区内のごみ集積所の鍵を借り受け、収集日に開閉するほか、収集後に清掃を行っています。また、集積所周辺の除草を年6回程度行っています。近年は、家族でこれらの活動を行っており、地域の模範として厚い信頼を得ていることが評価され、今回の受賞となりました。

心のふれあいを深める活動
関山区元旦マラソンの会



昭和60年に設立され、毎年、正月の恒例行事として元旦マラソン大会を開催しています。地域住民の協力を得ながら、約25年の長きにわたり大会を実施しており、地域の大切なイベントとして位置付けられています。こうしたコミュニティ活動が評価され、今回の受賞となりました。

中学生の税に関する 作文

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会では「税を考える週間」にあわせ「税に関する作文」を募集し、優れた作品の表彰を行っています。11月16日に熊谷文化創造館「さくらめいと」で表彰式が行われました。

ここでは、寄居町からの入賞者を紹介します。＜敬称略＞

寄居町長賞
「矛盾を考え直す」 大島友理香（寄居中3年）

寄居町教育委員会教育長賞
「大切な税金」 堀口　姫乃（男衾中1年）

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会　佳作
「税金の大切さ」 井澤　涼夏（寄居中3年）
「税の大切さ」 海埜　真世（城南中2年）
「税金の大切さ」 荻野　裕大（男衾中1年）

関東信越国税局管内 納税貯蓄組合連合会長賞

「祖母の入院から」

河合　広大（男衾中3年）

「おかえり」

僕が学校から帰ると、いつも笑顔で迎えてくれる祖母の姿を見ると、あの時、手術を受けられてよかったなと思う。

祖母は、四年前、頸動脈狭窄症の手術を受けた。これは、検診を受け、たまたま発見された病気だった。検診を受けずに生活していたら、病気が進行し取り返しのつかないことになっていたと思う。

医療制度で、祖母は健康診断が一年に一回無料で受けられる。また、一部助成金をもらって人間ドック・脳ドックを受けられ、これらはすべて税金でまかなわれているそうだ。

祖母の例のように検診は病気の早期発見につながる。もし検診が高額であったら、だれもが受けることはできないだろう。しかし、税金が使われることによって、検診が無料になり、みんなが気軽に受けられ、それぞれの健康が守られていることは、すばらしい制度だと僕は思った。

この時の手術は、全身麻すいをし、頸動脈を切り開く手術で、大学病院で行われた。そして、手術は大成功し、今も祖母はスイミングスクールに通ったり、畑で野菜を作ったりして、元気いっぱいに生活している。

ものすごい大手術と聞いていたので、成功したと聞いて僕はほっとした一方、手術代はかなりの額になるのではないかとちょっと心配になっていた。しかし、祖母の話では、入院費は自己負担が3割で約45万だったそうだ。

しかも、後日、国民健康保険から高額療養費として約24万は還付された。祖母は、「この時は、出費が多い中で本当に助かったよ。」と喜んでいた。

大きな手術だったにもかかわらず、入院費が高額にならなかったのは、普段から祖母が国民健康保険税を納めているからだ。僕は、祖母の話を聞き、健康な時は余り意識しないけれども、大きな病気をした時は、すごく頼りになり、助けてくれる制度だと感じた。

祖母は、税金による検診で命を救われ、入院費の多くも税金によって負担してもらった。

このように、身近な生活の中で税金は使われ、僕たちの生活を支えてくれているということを今回の祖母の手術によって知ることができた。今まで税金に無関心だったが、僕たちが生きていく上で欠かせないものであると実感した。

これからも、このすばらしい税の制度を大切にしていかなければいけないと思う。そして、みんなが安心して生活していけるよう、一人一人が税金に関心を持ち、みんなで支え合う社会づくりに努力していくことが重要であると思っている。